

# 障がいに対する理解を深める研修・啓発活動講師団 ニュース

～障がいの有無にかかわらず、お互いに認め合い、思いやり、支え合う社会をつくるために～

No.11 2016.3.17

民生委員児童委員を対象に、「ともに生きる条例」について理解する職員研修を行いました。民生委員児童委員協議会の各分会ごとに合計3回開催し、約150人が参加しました。

平成27年11月27日(金) ① 児童母子父子部会 10:30～12:00 (別府市社会福祉会館)

平成27年11月30日(月) ② 在宅福祉部会 10:30～12:00 (別府市社会福祉会館)

平成27年11月30日(月) ③ 世帯更生部会 14:00～15:30 (別府市社会福祉会館)

## 研修の流れ

### ① ともに生きる条例の概要等

障害福祉課職員から、データでみる別府市の障がい者の現状、ともに生きる条例の概要、障がいの種別と合理的配慮などについて説明しました。

### ② 障がいのある人が置かれている状況

講師団講師から、それぞれの置かれている状況や体験などを話しました。(内容は裏面に記載)

### ③ 質疑応答

双方向で意見を交わすことで、障がいへの理解を深めるため、質疑応答の時間を設けました。

障がいのある人の情報提供についてなど多くの質問がありました。



## 研修参加者の声

参加した民生委員児童委員の方からの声をご紹介します。

- 障がい者を見かけても声をかけてよいのかとまどっていましたが、なるべく手助けができるように困っているときには声をかけていきたい。
- 個人情報だからという理由で、地域内の情報を共有することが難しい状況だが、やはり共有することは大切だと感じたので、地域で話し合っていきたい。
- 勇気ある発表に感動しました。真摯に生活しているのが分かり良かったです。聞かないと分からないことです。実のある研修でした。
- 自治会での避難訓練に障がいのある方々を呼び込みたいと思います。



と も に 生 き る 条 例



発行：別府市福祉保健部障害福祉課

〒874-8511 別府市上野口町1番15号

TEL：0977-21-1413 FAX：0977-22-1780

E-mail：haw-hw@city.beppu.oita.jp

市ホームページ URL：http://www.city.beppu.oita.jp

### 精神障がいのある人との接し方（佐藤 紘造さん 精神障がい・保護者）

統合失調症は100人に1人がなる病気で、誰もが発症する可能性がある。子どもが病気になったときは、隠す一方で、近所に知られたら困ると思った。家族は情報も少なく、地域に社会資源も少ない状況である。

現在、星座オリオン（就労支援B型事業所）を運営し、30人ほどの精神障害のある人と接している。精神障がいのある人と接する際には、できるだけほめてあげることが大切だと思う。



### 前向きに生きていきたい（大野 有香 精神障がい）

病気になって以来薬の副作用や体の揺れ、目つき・顔つきが変わってしまうなど、とても苦しんだ。家族には、イライラして当たり散らすなどして、大変な思いをさせてしまった。

そんなときに、よい医師や星座オリオンに出会ったりできたことがよかった。

現在は、星座オリオンで様々な活動ができており、毎日充実している。

苦しいことがあっても目の前のことからコツコツ努力して乗り越えていきたい。これからも、前向きに生きていこうと思う。



### 防災をきっかけとした地域コミュニティによる共助（河野 龍児さん 肢体不自由）

昔に比べて今はつながりが希薄になっている。障がいのある人が地域で暮らしていくためには、やはり地域でのつながりが重要になってくる。これからは、新しいキーワードを持ちながら地域のつながりを再構築していく必要がある。そこで、我々が今考えているのは、防災をキーワードにして地域のつながりを強め、共助ができる態勢を整えるということ。

今、災害時の個別支援計画を作り上げていくという計画があるが、この個別支援計画の策定や防災訓練などについては民生委員のみなさんのお力をお借りする必要があると思うので、ぜひ協力をお願いしたい。



### 視覚障がいについて（瀬戸 弘美さん 視覚障がい）

自分は高年になってから緑内障で視覚障がいになったので、盲学校にも行っていないし、点字も全然できない。毎日沈んでいたが、別府市視覚障害者協会に参加させてもらって、生きていけるんだと思えるようになった。仲間には良くしてもらっている。

白杖をついている人、盲導犬を連れている人がいたら、ぜひ声をかけてほしい。声をかけてもらうことですごく幸せを感じる。

自分は緑内障だが、日本人の8人に1人はかかるということ。早期発見で進行を止めることができるので、気をつけてください。



### 重度心身障がいの子どもの歩み（永松 温子さん 重度心身障がい・保護者）

現在24歳になる重度心身障がいの子どものがいる。一人では立つことも座ることも話すこともできない。障がいのある子を持つと、母親は自分のせいだと思う。自分の場合は、ドクターの優しい言葉や、家族や周りの人が支えてくれたり、はげましてくれたりした。

なかなか子どもの障がいを受け入れられなかったが、ゆっくりゆっくり受け入れられるようになっていった。この子のおかげでかけがえのないいろんな人に出会うことができた。

立ってほしい、歩いてほしい、しゃべってほしいと願ってきたが、今ではこのままの子どまがいとおいしいと思える。いろんな人に支えられてきたからだと思う。



